

さい、議会だより



全員野球で奮闘！さいイーグルス（佐井小学校）
第 47 回青森県少年軟式野球大会むつ支部予選大会

6 月定例会の主な内容

- ☆補正予算可決「新事業に期待」……………2～3 ページ
- ☆一般質問に 2 人登壇……………6～8 ページ
- ☆追跡質問で開業医のその後を問う……………9 ページ
- ☆お元気ですか「働き者の 90 歳」……………12 ページ

平成28年第2回定例会は、6月13日から15日までの3日間の会期で行われました。
村長から、報告1件、承認4件、補正予算案4件、条例案3件の計12件が提出され、それぞれ全会一致で原案どおり決しました。

一般会計補正予算 起業、婚活を支援

一般会計	補 正 前	補 正 額	計	
	2 5 億 5 6 7 8 万 円	3 1 9 2 万 円	2 5 億 8 8 7 0 万 円	
補正の主な内容	■青森ねぶた参加のための旅費など・・・・・・・・・133万円 青森菱友会による佐井村の鬼退治伝説を題材とした青森ねぶたへの参加費			
	■地域おこし協力隊の起業支援・・・・・・・・・100万円 現在村で活躍している起業準備中の地域おこし協力隊1名に対する補助金			
	■未婚晩婚化対策事業・・・・・・・・・・・・・・593万円 鉄人料理フェアと合わせて行った出会い触れ合い巡り合い婚活事業に要する経費			
	■空き家等対策事業・・・・・・・・・・・・・・306万円 村内の空き家の現状調査をし、空き家情報のデータベース化に要する経費			
	※万円以下切捨て			
特別会計	会 計	補 正 前	補 正 額	計
	簡 易 水 道	7 9 5 6 万 円	△ 3 0 3 万 円	7 6 5 3 万 円
	下 水 道	1 億 8 6 4 2 万 円	2 1 1 万 円	1 億 8 8 5 3 万 円
	国 民 健 康 保 険	5 億 7 7 9 万 円	5 1 2 万 円	5 億 1 2 9 1 万 円

主な議案の内容

○平成27年度佐井村一般会計繰越明許費繰越計算書

平成27年度一般会計予算に計上の次の5事業について、年度内に事業を終えることが見込めないため、繰越明許費として報告する。
・情報セキュリティネットワーク強化構築業務

（2425万円）

・年金生活者等支援臨時福祉給付金システム改修業務

（183万円）

・子ども子育て支援システム改修業務

（60万円）

・地方創生加速化交付金事業

（367万円）

・年金生活者等支援臨時福祉給付金支給等業務

（1543万円）

○専決処分した事項の承認（平成28年度佐井村国民健康保険特別会計補正予算（第1号））

4億9875万円に903万円を追加し、5億779万円とする。平成26年度決算における赤字分1166万2千円を平成27年度予算において繰上げ充用として赤字解消を見込んだが、平成27年度の単年度決算では263万円の黒字となったものの赤字分の全額を解消することができなかったことから、繰上げ充用する。一般会計からの繰入処理による補てんはしない。

〈全会一致〉

◆各課審査では、予算や条例についての疑問を係長以上の職員から説明を受けることができます。議員から多数質問のあったなかから一部を紹介します。

問 データヘルス計画に取り組むための補正予算が、350万円見込まれている。その具体的な内容は。

答 病院を受診すると、後日役場に診療レセプトとして、その診療内容が回付される。データヘルス計画は、そのレセプトから医療情報を分析し、保険者の効果的効率的な保健事業を行うことを目的とする。専門の業者にデータ分析を依頼する費用を委託料として補正予算に計上したもの。

問 村内の学校に学校司書はいるか。また学校の図書の選定は、だれがやっているのか。

答 当村は、学級数が少ないため、司書を置く要件に当てはまらない。図書の選択は、学校に一任している。

問 婚活事業に係る予算の内訳は。

答

- ・報償費48万円
- ・旅費73万円
- ※鉄人シェフなどの旅費
- ・食材35万円
- ・委託料388万円

※女性の参加者の募集を依頼したNPOコミュニティーあおもりへの委託料
合計593万円



ウニパスタや鯛のピラフ、ホタテやアワビを使った本格料理に舌鼓

男女の出会いの場を創出しようと企画された婚活イベントに、村内男性9名、女性15名が参加しました。

鉄人坂井シェフをはじめとする料理界の有名シェフが、佐井村の食材を使って腕を振るい、参加した男女は夕日を見ながら料理を囲み親睦を深めました。婚活イベントはあと2回行われます。一組でも多くのカップル誕生を願います。

第3回大間原子力発電所対策特別委員会 オフサイトセンター候補地決定

村長からオフサイトセンターの候補地について、次の3か所を建設候補地として県に対し推薦する旨、議会に報告がありました。村は、県が求める条件を勘案し、利便性を含め、本村を中心に選定しました。

一、中道地区（地目 田2筆）

面積 5435㎡

佐井中学校グラウンドをヘリポートとして活用

二、黒岩地区（地目 田4筆）

面積 4616㎡

佐井中学校グラウンドをヘリポートとして活用

三、糠森地区（地目 畑）

面積 6209㎡

佐井小学校グラウンドをヘリポートとして活用

6月定例会 陳情書の審査結果

安全・安心の医療・介護を求める陳情書

【陳情者】 青森県医療労働組合連合会 執行委員長 山本 陽子

【審査結果】 採 択

【付託委員会】 総務産業常任委員会

【陳情の趣旨】 夜間・交替制勤務を行う看護職及び介護従事者などの労働環境の改善を図ること。また、医師・看護職及び介護従事者などの十分な確保策を講じること。

【採択の理由】 長寿世界一を誇る日本の医療は、今日まで医師・看護職をはじめとする多くの医療・介護従事者の懸命な努力で支えられてきた。しかし、後期高齢者の増加による要介護高齢者の増加、医療の高度化・患者ニーズの多様化などによる長時間労働など、労働環境は厳しい状況にある。さらに深刻な人手不足により、医療・介護従事者の努力だけでは安全・安心な医療・介護の提供が難しいものとなってきている。これらの課題への対応としては、国の措置が必要であると考えことから採択すべきものとした。

採 択

採択された意見書

国へ提出しました

空き家対策前進

川畑委員

空き家対策に関する予算が今回補正で計上された。具体的な計画は。

空き家を調査し
台帳に整備したい

村長

利用可能な空き家かどうかを調査し、台帳に整備したい。そして村に貸与または寄付できるものかなどを分類し、定住・移住対策として貸し出しをする体制を整えたい。また、改修などが必要になれば、地元建築業者などの経済的なプラスにも繋がると考えている。

今後の進め方は

川畑委員

空き家調査の今後の進め方は。

7月に委託業者の入札予定

総合戦略課長

7月に委託業者の入札を行いたい。その後の調査には3ヶ月ほど要すると

見込んでいるので、納品は今年一杯になる見込みである。

調査後の計画は

川畑委員

現時点で、調査後の空き家の活用計画などはないということか。

施策は調査完了後

村長

空き家を利用した定住促進と、人口増に向けた施策は、調査が完了後になる。

一日も早い
条例制定を

川畑委員

空き家の利用を検討しているということから、調査、報告、分析、そして一日も早い条例制定を目指して欲しい。

同時に進めて行く

村長

空き家の台帳整備がでなければ、移住・定住対

策が進まないということではない。例えば子育て支援対策などを展開しながら、同時に空き家対策事業を進めて行きたい。



村内の空き家を調査し、データ化して台帳へ整備する



山口捷夫議員

子どもが学び成長する場「しおさい公園」 遊具の設置と環境整備の充実を 村長―早期設置を目指し県と協議して進める

山口議員

しおさい公園内に設置され、子どもの遊び場となっていた遊具が老朽化により撤去された。その後新しい遊具の設置がされていない状況である。県または村で遊具の設置を考えているか。

早期遊具の設置を
県と協議したい

村長

しおさい公園は、平成7年度に県営事業として県が整備したものである。村では維持管理を行ってきたが、昨年の7月に県に対し遊具の更新を要望した。その後今年の3月に県が現地を確認し、危険であるということで撤去したものである。早期の遊具の設置を目指し、今後県と協議していきたい。

駐車場未舗装部分
舗装できるか

山口議員

公園は、幼児、小学生、中学生が一緒になって遊べる場所である。その中で子どもたちが学び、成長していく教育現場の一つでもあると考える。県でも予算が厳しいという状況ではあるが、早目に整備をして欲しい。

舗装が必要な理由
があれば協議する

村長

佐井村漁港整備計画により生じた土地で、村と県が所有する2つに分かれている。未舗装にした経緯

は、車両の乗り入れ防止と土埃などの飛散などを検討した結果、未舗装にしたということである。舗装が必要であるという明確な理由があれば県と今後協議して行きたい。

景観よくなる

山口議員

舗装すれば、景観も良くなるのではないか。村の土地の部分だけでも舗装できないのか。

時間をもらいたい

村長

県の土地を借り入れできるかどうかなど詰めていきたいので、少々時間を頂きたい。

公園内に桜を植樹
してはどうか

山口議員

公園内に桜を植樹できれば、村民や観光客にもより楽しんでもらえるのではないか。

町内会との事前の
協議が必要

村長

昨年度の行政懇談会で、中浜町内会から植樹について相談があった。県に確認したところ、桜の植樹は可能である。しかし、町内会と村とで維持管理や危険防止などについて、事前に協議が必要である。



扇谷新聞店向かい未舗装部分

標柱の設置、間近に迫る生誕祭

赤十字の本質に沿った事業を

村長 — 精神伝承「佐井村から愛の心を世界中に」

山口議員

27年度は、赤十字に関する標語を募集し、標柱を2基設置したが、今後も作る予定はあるか。

村長 昨年度に引き続き標柱設置したい

村長 昨年度に引き続き、県内の小・中・高校・大学生までを対象に標語を募集し、標柱を設置したい。

何基設置か
同じ標柱か

山口議員

何基設置を考えているのか。また、同じ様な標柱か。

住民からの意見も参考にする

村長

標柱のデザインなどについては、住民の方から寄せられた意見なども参考に、今後教育委員会と協議して進めたい。

生誕祭までに

10基設置予定

教育長

標柱は、生誕祭まで継続し、合計10基を予定している。

資料館や研修所の建設はどうか

山口議員

三上剛太郎の資料館や研修所の建設について、26年の6月議会で質問した。その際の村長の答弁は、前向きな答弁であったが、今も変わりはないか。

建設の計画はない

村長

私の答弁で誤解を与えたことをお詫び申し上げます。今後資料館や研修所の建設計画はない。三上家や海峡ミュージアムの充実に努め、研修の場は公共施設などを利用して行きたい。

大変残念。名に恥
じない事業展開を

山口議員

赤十字事業が、中身の濃いものになると期待していたが、大変残念である。今後も赤十字の名に恥じない事業の展開をお願いしたい。

子々孫々まで崇高な精神を受け継ぐ

村長

子々孫々まで、その崇高な精神を受け継いでいくことに徹底して行きたい。

生誕祭はいつ、
どのような構想か

山口議員

生誕祭はいつ頃、どのような構想で行うのか。

平成30年

県支部と協議

村長

平成31年で三上剛太郎生誕150周年を迎える。また日本赤十字社青森県支部が平成30年に設立130周年を迎え、記念行事

を計画している。日赤青森県支部では、東北規模を考えた大規模なものを予定しているようである。そこで、広く当村の取り組みを知ってもらうチャンスと考え、連動した開催ができないかどうか県支部と協議して行きたい。



三上剛太郎生誕祭プレイベント（平成27年11月15日アルサス）



竹内典和議員

将来の佐井村のために

返さなくても良い奨学金の創設を

村長——佐井村奨学金貸与条例の一部変更を検討

竹内典和議員

国は今、一億総活躍プランで返済不要の奨学金の創設を検討中である。しかし、利用条件はかなりハードルが高くなるようだ。そこで佐井村も独自に※給付型奨学金を創設し、保護者の教育費負担を軽減し、子どもたちの教育を受ける機会を増やすために支援して行く必要があると思うが。

条件付きで返済の免除ができる規定を検討してみたい。

意欲向上、優秀な人材確保に繋がる

竹内典和議員

財源がないのではなく、ある財源をどう配分するかだと思う。一部条件の例として、卒業後佐井に帰り何年か地元勤務することか、成績優秀、スポーツ、芸術の優れた人とかいろいろあると思う。実行することで教育機会の格差解消になるし、子どもたちの意欲向上になるのではないか。さらに少子化対策や、優秀な人材確保にも貢献するのではないか。

国の動向を見て積極的に協議する

村長

佐井村の将来を担う人材育成のためにも、一番重要だと思っている。国の条件整備を見ながら、積極的に協議して行きたい。

予算化すべき

村長の決意に期待

竹内典和議員

将来の佐井村のために何を差し置いても予算化すべきだ。村長の決意に期待する。

一部条件付きで

返済免除を検討

村長

給付型奨学金の必要は十分認識している。しかし、現在それに充てる財源などは大変厳しい状況であり、現状の貸与型奨学金を継続して行きたいと思う。また、佐井村奨学金貸与条例の一部を変更して一部

給付型奨学金とは

奨学金制度を利用すると返済が必要になり、その返さないといけない奨学金を返済できない人が多いため、国は返済しなくてもいい奨学金を創設することを検討している。



佐井村の子どもたちの未来への可能性は無限大

◆追跡質問で、過去に質問した件はその後どうなったのか経過を問います。

医師確保（28年3月定例会）

開業医進展したか

坂井議員

医師確保について質問した際、佐井村に関心を持った開業医が何名かおり、5月に来村する予定だということであった。その結果はどうなった。

第2回目の会合が行われた

村長

無医村解消に向けたサミット開催後、大竹先生他十数名の関係者による第2回目の会合が行われた。そこで意見交換がなされ、翌日に住民福祉課長が村内を案内し、対応した。

**開業する場合の土地や場所を相談
住民福祉課長**

大竹先生は、話し合いの中で、まだ実行できるかどうかは確実ではないが、電子カルテの活用や、レントゲンの画像システム等機械関係、薬局の併設などを考えていると述べていた。また、開業するとしたら、その土地や場所についても相談があった。

**来てくれるのは
大竹先生本人か**

坂井議員

条件次第では当村に来ても良いという医師は、大竹先生本人ということか。

**医師を探すのは
まだ時間がかかる**

住民福祉課長

医療関係者のチャンネルで佐井に来てくれる医師を探すのは、まだまだ時間がかかる。大竹先生は、最終的に医師が見つからない場合は、自ら佐井村で開業するなどの方法があると話している。

村長の考えに変わりはないか

坂井議員

村長は、今後も民間の開業医と併せて県にも要望して行く考えで変わりはないか。それはあくまでも大間病院の医師確保という考えで進めて行くということか。

**診療所再開不可能
考えは変わらない**

村長

県内医師不足ということからして、佐井診療所の再開に対しての医師確保は不可能に近いことから、今後も民間の開業医の呼びかけを働きかけていくよう進めて行きたい。



青森県保険医協会会長 大竹進氏

大間原子力発電所 運転訓練・広報センター視察

4月27日 大間町

運転訓練・広報センターは、発電所の安全運転のため、あらゆる事態に対応できるよう「運転訓練シュミレータ」による訓練を行う施設です。

大間原子力建設所長などから施設の概要及び運転訓練装置の説明を受けました。その後、発電所完成後に運転員として配置される職員による訓練の様子を見学し、大間原発に対する安全対策について視察しました。



運転訓練・広報センター

西目屋村行政視察及び木質バイオマス発電視察

5月11日～12日 西目屋村及び平川市

佐井村議会では、西目屋村との協定により議会相互の交流を通じて、議会活動の活性化を図っています。世界遺産「白神山地」や「津軽ダム」を活用した観光事業への取り組みなどについて、西目屋村議会議員の方と意見交換をしました。

翌日は、近隣の平川市にある（株）津軽バイオマスエナジーと津軽バイオマスチップ（株）を訪ね、リンゴ剪定枝や間伐材などを利用した木質バイオマス発電事業を視察しました。



西目屋村「津軽ダム」



津軽バイオマスチップ（株）

県下町村議会議員研修会

7月14日 青森市



講師のテレビ朝日コメンテーター 川村晃司氏

青森市民ホールで行われた標記研修会に参加しました。

県内各町村の議員が参加し、外交・政治経済に強いコメンテーターとしてテレビ番組などでも活躍中の川村晃司氏が講演を行いました。

「これからの政局・政治動向」と題した講演は、7月の参議院議員通常選挙の結果分析などを交えた内容で、大変興味深いものでした。

東北電力（株）東通原子力発電所視察

7月15日 東通村



東通原子力発電所

東通原発は、平成17年12月に稼働しましたが、現在は新規制基準適合性審査中のため停止中となっています。

今回は、津波浸水対策の防潮堤や水密扉、電源確保対策としての大容量電源装置やガスタービン発電機、電源車など安全対策の取り組みを確認することができました。また敷地内断層について、現場を見ながら将来活動する可能性のある断層かどうかなどの調査結果の説明を受けました。

東通オフサイトセンター視察

7月15日 東通村



フィルター機能の説明を受ける様子

原子力災害時における拠点となる東通オフサイトセンターは、東通消防署、東通村災害対策本部室などと併設しています。施設の規模は2,757㎡となっており、情報共有化のためのTV会議システムや電話・FAXなどの通信機器、放射線の影響を予測するシステムなど、必要な機器が整備されています。また放射線防護として放射線を遮断するフィルター機能などがあり、安全対策も万全であると感じました。

元気！で働く お年寄りを紹介



川畑 ときさん（90歳）矢越
「編み物は毎日の日課」

4 世代8人家族で、ひ孫3人と元気に暮らしている川畑ときさんに話を聞きました。
毎日の日課は、新聞を読むこと、編み物を休め休め無理しない程度にすることだそうです。編み物はカラフルな毛糸使用で、クッションカバーや手袋などを編みます。
好き嫌いせずたくさん食べ、ひ孫と散歩をすることが、健康の秘訣と教えてくれました。

「二」の日も、獲れたウニを塩ウニにするのは、ときさんの仕事です。
「あっちやの塩ウニを食べると他のが食べられない。」
と言われるほど、好評だそうです。
家の前の畑では、大好きなジャガイモなどを植えています。その野菜がぐんぐん成長するのがうれしいし、楽しみだと話してくれました。



ウニを割る作業



編み物を見せてくれたひ孫の奏大君（4歳）

◇編集後記

村の人口は、5月末で2191名、高齢化率は39パーセントに達した。

今回の補正では、新たに事業を起こす起業支援、出会いを生み出す婚活事業、空き家調査事業などが目玉と考える。これらの事業は、人口減少対策に複合的なつながりを持っている。

現在、村では「小さくともきらりと光る村づくり」が推進されている。初めて広報編集委員となるが、情報を分かりやすく伝え、住民のみなさんとの窓口になるよう努力していきたい。
（川畑）

広報編集委員

委員長	田中 岩男
副委員長	山口 捷夫
委員	宮川 尚
川畑 勲夫	竹内 典和